

# グリーンニュース 第4号

発行年月日 平成11年5月13日

発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会  
代表 新井 榮一

環境アドバイザー重点行動テーマ

## 行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・

### 環境アドバイザーの新しい仲間を増やそう

・・・平成11年10月1日付で、アドバイザーは登録更新となります・・・

### ◎ブロック別の事業説明会を開催中！！

県内9ヶ所で、次のような議題で、順次、出前の事業説明会を実施しています。

1. 環境アドバイザーに関連する県の事業概要の説明と協力依頼
2. 平成11年度群馬県環境アドバイザー連絡協議会事業計画の説明
3. その他

特に、本年度は、県予算で地域毎に、環境教室を開くことが可能となりました。環境意識の高揚を図るとともに、新しい仲間づくりに活用してください。

### ◎施設見学会（東毛地区）を行います

次のような環境関係施設の見学会を行います。ご参加ください。

日時 平成11年7月21日（水）22日（木）1泊2日  
出発 県大渡庁舎前9時出発・・・途中乗車可能・・・  
行き先 東毛地区 板倉町資源化センター（ごみ固形化燃料施設）  
茨城県総和町プラスチック再生工場  
その他

費用 7,000円（2食付宿泊費）

### ◎環境問題視察ツアー（ドイツ・オーストリア）のお誘い

皆様にご案内したところ「11日間の旅行は長すぎる、1週間程度にして欲しい」との声が多いため、企画を変更し『10月24日（日）出発、10月31日（日）帰着』の日程に変更したいと考えております。詳細は、改めて幹事会に諮り皆様にご連絡致しますが、初めをフライブルグとして各地2泊の予定です。ご参加下さい。

# 県情報コーナー

## 平成9年度ゴミ処理の状況

平成9年度の群馬県内のゴミの排出と処理の状況についてその概要を紹介します。

### 1 ゴミの排出量

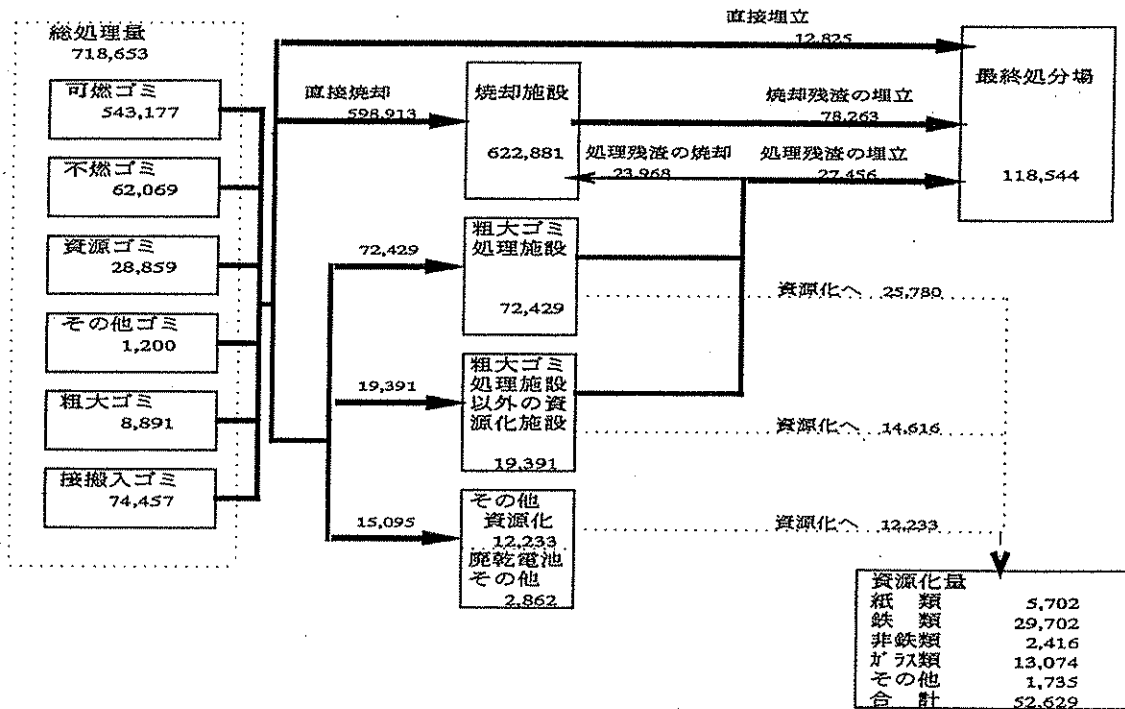
平成9年度中に排出されたゴミの総量は、750,053トンで、県民一人あたり1,021グラムです。最近5年間の排出量の状況は表のとおりで、ほぼ横這いの状況が続いています。

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年
総排出量(千トン)	734 (100)	739 (101)	726 (99)	714 (97)	750 (102)
1人1日あたり排出量(グラム)	1,010 (100)	1,014 (100)	993 (98)	975 (97)	1,021 (101)
全国1人1日あたり排出量(グラム)	1,103 (100)	1,106 (100)	1,105 (100)	(未発表)	(未発表)

( )内は平成5年の数値を100としたときの伸び率

### 2 ゴミの処理

収集及び直接搬入されたゴミ718,653トン、653トンは次のように処理されました。



上図からわかるように、資源化されるゴミは52,629トンであり、資源ゴミとして収集されるゴミの他にも粗大ゴミなどから資源回収が行われています。しかし、それでも資源化される量は、処理施設に集められたゴミの7.3%にすぎません。

資源化と埋め立てされる量を差し引いた547,480トン(76.2%)は焼却などにより減容化されています。

(処理方法別処理量の推移)

	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
焼却(トン)	560,128 (100)	572,880 (102)	580,542 (104)	587,770 (105)	622,881 (111)
資源化(トン)	42,338 (100)	45,627 (108)	46,524 (110)	50,123 (118)	52,629 (124)
最終埋立(m³)	172,259 (100)	166,152 (96)	134,097 (78)	141,415 (82)	123,327 (72)

## 地域ニュース

### 《富岡ブロック》・・・富岡市、甘楽町、下仁田町、妙義町、南牧村・・・

富岡ブロックは、32名で構成されています。今までに、数回の集会を開催しましたが、お互いの活動状況の紹介や意見交換で終わって、何かブロックとしてまとまったの行動はまだしていません。それぞれのアドバイザーは、所属団体や地域、会社の中で自然保護やごみ減量、グリーンコンシューマーなどに、力を入れています。

富岡市では、昨年6月に、富岡市の“世界環境デーの日”に、アドバイザーの提案で、キンカ堂、スーパー丸幸、もみじ平運動公園の駐車場でチラシを配って、アイドリングストップを市民に啓発しました。今年度の同じ行事にも、昨年と同じく、車に貼るステッカーを配って、啓発することになっています。

今回、富岡でも、“ブロック別事業説明会”が開かれるので、私個人としては、皆さんとご相談して、地域環境学習講座を開催できたらと考えています。

☆ 連絡先 富岡市下黒岩 581 柴田正三さん TEL 0274-62-4008  
☆ // 執筆 富岡市富岡 1944-3 飯井哲子さん TEL 0274-62-0020

### 《渋川ブロック》・・・渋川市、赤城村、北橋村、吉岡町、伊香保町、子持村、榛東村・・・

我が家には、二本の山椒の木があります。庭の南と西側に植えられたもので、どちらもほぼ同じ時期に植えたものですが、なぜか、その成長にはかなりの違いがみられるのです。

南の木は大きく、枝も四方に張り出され、季節になれば、その芽を佃煮にしたり薬味にしたり。伸びすぎた枝を、播り粉木に利用することもでき、その香りを楽しめますが、西側の木は、あまりに小さくて、芽を摘むことすら可哀想なくらいなのです。

これには、確かに日当たりなどの環境の違いもあるのですが、やはり栄養の差がその原因かと。南の木、この下の地面には、かつて『生ごみ』だったものが埋められています。これが地面の中で朽ちていき、今ではよい腐葉土になっているのです。

家庭ごみを庭造りに生かす、よく言われるリサイクルで、実行している人もきっと多いのでしょう。でも、実際にその成果を目に見えて実感したのは、初めてでした。

執筆 渋川市八木原 447-3 大竹 千絵さん 0279-25-1246  
連絡先 渋川市阿久津 166-8 森田 泰治さん 0279-22-2087

### 《藤岡ブロック》・・・藤岡市、新町、吉井町、万場町・・・

新町地区の実態を報告します。新町地区では、環境美化推進員(会員26名)で環境問題に取り組んでいます。役員 会長1名、副会長2名、会計書記1名。行政より事務局長として参加。

役員は、3ヶ月ごとに会議を開き、3ヶ月間の行事日程を決め、事務局長は決定事項を会員に文書で通知する。会員は決められた日時、場所に参加して清掃活動(自由参加)を行う。参加人員は毎回 22~23名位、収集は1回 150キロ程度収集している。また、ごみ収集場の監視及び町民への指導を行う。

その他、年1回先進地の見学、参加人員は20名位で町のマイクロバスを使用する。

連絡先 執筆 多野郡新町 2666 土屋金徳さん TEL&FAX 0274-42-0425  
// 藤岡市藤岡 1119-3 井口邦子さん TEL 0274-23-0830

## トピックス・ことばの解説

# ダイオキシン

### A 多種多様なダイオキシン類

ダイオキシン類には二百種類以上の物質が含まれ、次の3つのグループに分けられます。いずれも、炭素などから成る基本骨格のまわりに塩素が結合していることが特徴です。

☆ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ダイオキシン (PCDD) 75種類

☆ポリ塩化ジベンゾフラン (PCDF) 135種類

☆コプラナーポリ塩化ビフェニル (C<sub>o</sub>-PCB) 13種類 (…含めない場合もある)

ひとくちに、ダイオキシンの測定といっても、これら多くの物質を分析する必要があり、費用的にも「1サンプル数十万円」と大変です。

### B 焼却による発生とその対策

基本骨格部分は炭素や酸素から成るので、あらゆる有機物の燃焼によって生成する可能性があります。まわりに結合する塩素の供給源としては塩素系プラスチック(ポリ塩化ビニル、ポリ塩化ビニリデン)が最も有力です。塩分などの塩素イオンが供給源になることもあるようです。その他の条件として、次のようなことがあります。

☆ 金属(銅や鉄など)の共存下では、その触媒作用のため生成しやすい。

☆ 300~400°Cで生成しやすく、750°C以上なら分解する。

したがって、効果的な対策は、可燃ごみ中に塩素系プラスチックや金属を混入しないこと、燃焼温度を高く保ち、焼却灰や排煙は急冷することなどです。また、焼却灰や洗浄排水の管理は厳重にしなければなりません。より根本的な対策は、ごみを燃やさないことで、欧米ではごみ減量でダイオキシン発生量を低下させることに成功しています。

### C 生物に濃縮・蓄積

ダイオキシンは水より油に溶けやすく、自然界で分解しにくい物質です。このため、環境中に放出されると、食物連鎖を通じて生物体内の脂肪に濃縮・蓄積されます。

### D 食物からの摂取が大半

焼却施設で働く人などを除いては、焼却施設のばいじんを呼吸で直接摂取する分はわずかです。全摂取量のうち9割以上は、いったん土壌や河川、海などに拡散したダイオキシン類が、食物である生物に、濃縮・蓄積されて人間にかえってくるものです。

### E 健康への影響

動物実験で報告されている毒性は、体重減少、皮膚障害、肝障害、発ガン性、奇形、免疫異常、受胎率低下、生後生存率低下、子宮内膜症などです。

人では、成人よりも胎児への影響の方が心配され、とくに少量でも発症しやすいのが子宮内膜症と考えられます。母乳の脂肪分を通じて乳児へ移行するダイオキシンは、アトピー症との関連が疑われています。通常摂取量での健康影響は、まだまだ研究中の状態です。

### F おわりに

食物や母乳中のダイオキシンを心配するあまり、栄養バランスを欠いてしまつては本末転倒です。

A項で述べたように分析が大変なため、現状では土壌や食物のチェックが不十分です。土壌や食物の許容基準値の設定、分析施設とチェック体制の整備などを、国や自治体に働きかけるべきです。

ダイオキシンは、いったん排出してしまつたら対策は困難です。発生源対策を徹底し、時間をかけてクリーンな環境を取り戻さねばなりません。

(文責 群馬大学 教育学部 助教授 薬学博士 西園大実)